

7月13日（木）、4年3組で国語科の努力点公開授業が行われました。
単元は「『1学期の思い出記者』になろう」です。

初めに、首相の会見の様子と、野球選手のヒーローインタビューの画像を示しました。

記者の皆さんは、インタビューを受ける人の話を上手に引き出します。今回の授業では、友達から1学期の思い出をどんどん引き出すというめあてを確認しました。すると、児童の中から「頑張るぞ」と声が上がりました。



【会見の様子を示す教師】

次に、代表児童2人が教師の思い出を引き出しました。児童が「1学期の思い出は何ですか」と聞くと、教師は「ううん」となってしまいました。そこで、他の児童が「1学期の思い出はありますか」と聞きましたが、教師は「あります」と答えただけになりました。今度は、「一番感動したことは何ですか」と聞くと、教師は「みんなで行ったオーケストラです」と答えました。そこで児童は、「その中で特に心に残っていることは何ですか」と聞くと、「みんなで『音楽のおくりもの』を歌ったことです」と答えました。



【デモンストレーションの様子】

この様子を見ていた児童は、「質問が大ざっぱだと答えにくくなる」ことや「あるかないかを聞いても話が広がらない」ことに気付きました。また、「うれしかったことは何ですか」のように、気持ちを伴う質問をするとよいことが分かりました。

いよいよ、インタビューの時間です。詳しい内容で質問したり、敬語を使ったりしたことで、質問に答える児童は答えやすかったそうです。ただ、「上手く質問できなかった」と話す児童がいました。そこで、教師が、『お手伝いをしたことです』と答えた人に対して、『どんなお手伝いをしましたか』と質問する人がいました。これは詳しく聞き出していますね」と、質問の答えに対して、さらに内容を掘り下げることのよさを伝えました。



【インタビューの様子】

2回目のインタビューの時間です。内容を掘り下げる質問を意識する児童もおり、「神戸に行きました」「神戸で何をしましたか」「神戸牛を食べました」「神戸牛はどんな…」と、掘り下げていく様子が見られました。そのグループでは、「旅行で大変だったことは何ですか」「名古屋から遠かったことです」と、どんどん内容を広げることができていました。

質問をするということは、相手に興味をもつことから始まります。また、質問の答えに対して、さらに詳しくしたり広げたりするには、質問の答えを注意深く聞く必要があります。このインタビュー形式の学習は、そういった点で、話すこと・聞くことの力を伸ばす、よい学習だと思いました。